

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		バウム			第三者評価受審年度	令和5年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (5年度)	改善計画 (5年度末時点)	実施状況 (5年度末時点)	実施状況 (5年度末時点)		
今後の職員のスキル向上や業務レベルの底上げが期待されます	職員の経験年数が一般的に上がっていくと共に、支援スキルの向上は図られているが、経験年数が5年未満の職員も多く、支援の手法や福祉制度等に関する知識について更なる向上が必要である。	引続きOJTや学習会、外部研修の受講等により知識の習得、経験の積み上げを行っていく。	法人内の他の事業所の実地研修、虐待防止・権利擁護、サービス管理、相談支援に関する研修など様々な研修を複数の職員が受講し、知識の習得に努めている。またOJTによるスキルアップに継続して取り組んでいる。			
利用者一人ひとりのできることを把握し、作業効率を高める取り組みが期待されます	利用者の希望や特性を尊重した作業配分を行うことで、利用者の気持ちの安定化は図られる一方、作業のスキルアップの為の指導はやや不足してしまうことがある。利用者の安定を最優先にしながらも個々の利用者の能力向上をいかに効果的に行っていくかが課題である。	これまで通り利用者の気持ちの安定化を重視しながら、利用者と職員で作業に関する目標が共有できるようにコミュニケーションをしっかりと行うことで、利用者の意欲向上を図る。また、利用者のやる気に応えられるように組織的に支援に取り組む。	日常の作業場面の観察や利用者との会話などから、個々の利用者の希望、長所、課題などの把握に努めている。また、それらの事項を職員ミーティングで共有し、支援針を定めた上で支援にあたっている。			
不適切な対応について互いに指摘しあえる関係性の構築が期待されます	職員間のコミュニケーションは良好で利用者の状況や作業の進捗状況、その他運営に関する事項など全体での情報共有はよくできている。支援方針等は互いに意見が言い合える関係性ができているが、不適切と感じる対応についての指摘についてはまだ遠慮があるように感じられる。	リーダー層の知識の習得を更に進め、理論的に職員に指導できる力の向上を図る。職員間の良好な関係性を最大限活用し、事業所の質の向上の為にお互いに言い合える関係性の更なる強化に努める。	リーダー層に対してはスキルアップのために継続してOJTを実施している。職員はお互いに言い合える関係づくりに努めている。			

※この様式は、「小平市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。